

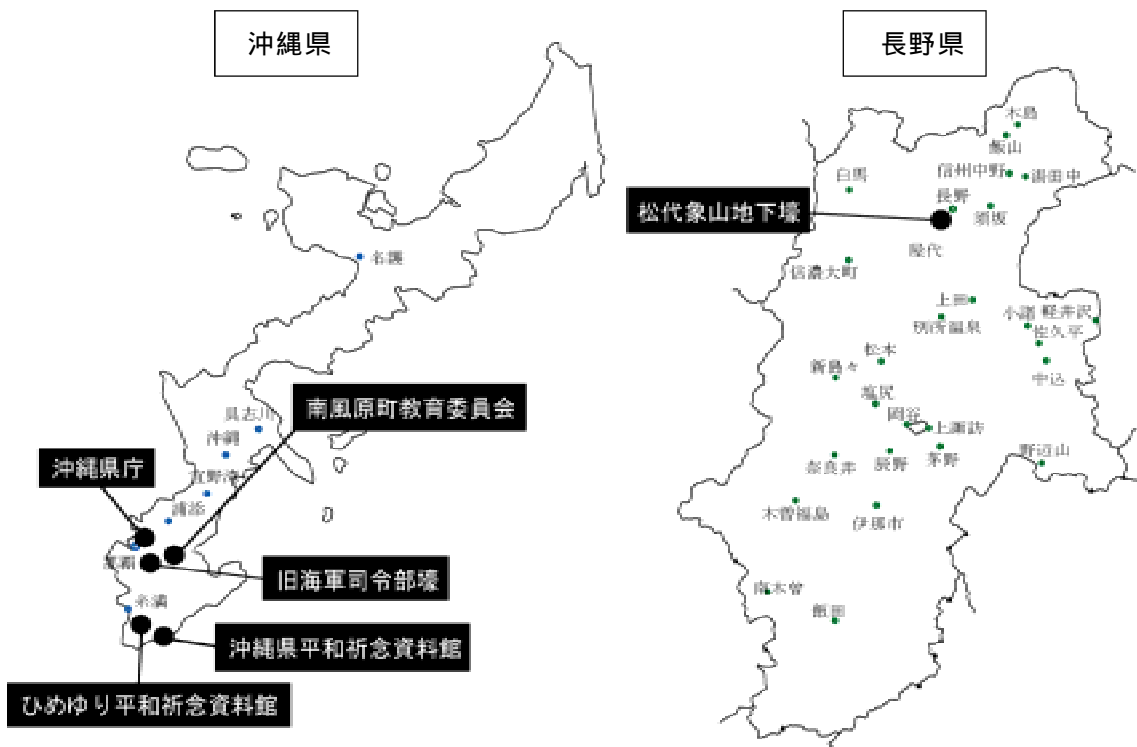
## 2 戦争遺跡の保存・活用事例

戦争遺跡の保存・活用に係る先進地の事例把握については、調査研究委員会（委員及び幹事等）による長野県松代象山壕等事例調査及び事務局（幹事等）による沖縄県平和学習拠点等事例調査を実施した。調査の実施概要は、下記のとおりとなっている。

図表 5-13 事例調査の実施概要

区分	日程	摘要
長野市松代象山地下壕等事例調査	平成 14 年 12 月 5 日～6 日	調査研究委員会の委員・事務局（幹事、館山市）により、松代象山地下壕（長野市）の現地視察調査を実施し、その後、長野市役所担当者、ボランティアガイド代表者等から聴取調査を実施した。また、関連施設として、長野県立歴史館、無言館等の視察も実施した。
沖縄県平和学習拠点等事例調査	平成 15 年 1 月 27 日～29 日	事務局（幹事、館山市）により、沖縄県内の旧海軍司令部壕（豊見城市）南風原町教育委員会（南風原文化センター）、ひめゆり平和祈念資料館（糸満市）、沖縄県平和祈念資料館（糸満市）等の視察調査、聴取調査を実施した。また、沖縄県庁関係課（総務部知事公室平和推進課、土木建築部都市計画課）に対して、沖縄県における取組等についての聴取調査も実施した。

図表 5-14 事例調査の実施概要



## (1) 松代象山地下壕（長野市観光課等からの聴取結果）

## ア 全体概要について

長野市では、昭和61年から松代象山地下壕などについて、公開に向け調査を実施し、平成元年に臨時公開（70m）、平成2年に公開範囲を拡大（519m）した。舞鶴山、象山、皆神山の3か所のうち、象山を一般公開、舞鶴山は気象庁精密地震観測所として利用している。大部分が借地となっているが、地権者の承諾を得て無償で借りている。今後、文化庁による文化財指定を受けるとすれば、借地料や地上権設定なども考える必要がある。



長野市からの聴取状況

象山壕以外の公開については、舞鶴山は地震観測所として利用しており、地震資料室を公開している。壕内部については、くしゃみや地球の反対側の水爆実験でも感知する精密機械（100mの石英管）が設置されているので、年1回の一般公開日以外の公開は不可。また、皆神山は崩落がひどく公開は不可能な状況にある。

## イ 基盤整備

現在、管理棟、安全柵、仮設トイレ、照明設備、インターフォン、支保工などを設置。駐車場が整備されておらず、5～11月の修学旅行シーズンになると、大型バスや一般車が路上に無断駐車するので、市民から苦情がある。駐車場は、真田宝物館又は松代駅に無料観光駐車場が整備されており、そこに駐車して10分間程徒歩で地下壕へ移動してもらっている。今後、地下壕近くに駐車場の整備計画がある。

## ウ 安全対策

過去に地下壕の崩落などによる事故はないが、見学者の不注意による転倒などの話はある。事故があった場合は、全国市長会市民総合賠償保障保険で対応するが、自然災害には該当せず、岩盤崩落などの管理者側に過失があった場合のみ適用される。

安全確認の判断根拠としては、鉱山保安技術・資格を有する業者に点検を委託し、報告書により安全を確認している。点検は、年6回精査点検を実施している。2年前までは年4回であった。法的根拠は特になく、安全性の確保を目的に自主的に実施している。精査点検の内容は第3火曜日が休みなので、月曜日の夕方閉門後から火曜日にかけて点検する。点検内容は、目視による観測と棒により岩盤を実際に叩いて点検し、報告書にまとめる。小規模な崩落は棒で叩いて落とし、大規模な崩落の恐れのある危険箇所は支保工により補強する。

安全確認の判断根拠としては、鉱山保安技術・資格を有する業者に点検を委託し、報告書により安全を確認している。

## エ 見学者への対応

見学者はここ数年10万人を超える。中高生の課外授業に採用されるケースが増えている。

壕への入退場の確認は、入壕時に人数を自主報告してもらっている。実際にカウントしているわけではない。ボランティアガイドが付く場合はガイドが確認している。出入口が1つであり、立入禁止柵が設置してあるので、道に迷うことはない。閉門時に管理人が終点まで歩いて点検し、壕内に人が残っていないことを確認してから閉門する。

## オ 職員等

職員については、公益法人であるシルバー人材センターに委託している。職員3名のうち毎日交代で1名配置としている。

## カ 保存・活用

文化財の所管は文化課であるが、整備・管理運営は観光課が担当している。文化課は教育面から利活用して発展させようとするが、観光課はどうしても客寄せの材料としてみてしまう。扱うものは同じであるので、どのように連携していくかが当面の課題となっている。

周辺観光地の整備としては、都市計画課で「歴史的道すじ事業」により景観形成整備をしている。長野市景観形成推進事業補助金があり、地域住民が、景観についての研究や良好な景観づくりを自主的に実践している場合、また、それらの団体が景観に関する協定を定める場合、要件を満たしているものは認定し、技術的援助や助成を行っている。

## キ ボランティアガイドの活動

松代文化財ボランティアの会が、ボランティアガイドを結成している。松代文化財ボランティアの会は結成して3年目。市営の真田宝物館（入館料大人500円）内にある松代藩文化施設管理事務所を窓口としている。

活動内容は、展示ガイドボランティア（真田宝物館の展示を説明）、文化財調査ボランティア（松代町の文化財を調査し保存する）、町内ガイドボランティア（来外者に対して松代を総合的に案内する、宝物館来館者対象）の3つがある。象山地下壕は宝物館の周辺文化財（真田邸・文武学校・横田家住宅・象山記念館等）の一つとしてガイドをしている。

ガイドは事務所から500円/人の謝金（交通費）をもらっている。以前は1,000円/人もらっていたが、削減された。また、松代文化財ボランティアの会の他に有料団体が6団体あるが、正確な構成人数などは市でも把握していない。酒屋などが無償でガイドをしているケースもあり、帰りに店によって酒を買ってもらうシステムのようなものである。有料団体の概要は、各団体とも、手数料として3,000円/回もらっている。

市観光課に問合せがあった場合や、旅行業者からの申し入れに対しては、有料団体を紹介する。行政からのオファーについては松代文化財ボランティアを紹介している。

各団体のガイド内容については、各団体とも様々である。

現在、ガイドは約110名で、平均すると延べ50～60人/月がガイドを行っている。松代文化財ボランティアの会では、年に6～7回の研修会を実施して、資質向上を目指している。